

七、移出米仕向先別數量調

(至昭和四十六年二十五ヶ年間)
×印^{単位}二斗入袋

新潟縣	精米 計	玄米
山口縣	精米 計	玄米
鳥取縣	精米 計	玄米

支那	京都府	神戸	横浜	新潟	福島	米穀計

支那	京都府	神戸	横浜	新潟	福島	米穀計

支那	京都府	神戸	横浜	新潟	福島	米穀計

備考　自明治四十年至大正七年間の移出検査総數と本表合計數との一致。

其ノ他

佐賀縣	糲漿 計 菜 菜
神奈川縣	糲漿 計 菜 菜
奈良縣	糲漿 計 菜 菜
長崎縣	糲漿 計 菜 菜
大分縣	糲漿 計 菜 菜
浦鹽須德	糲米 計 菜 菜
石川縣	糲米 計 菜 菜

— — — — —

卷之三

一元八毫五厘

卷之三

卷之三

四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

備考 明治四十年至大正七年間の移出検査總數と本表合計數との一致せざるは大正七年以前に於ては不合格米の輸出を禁止せるに依る

さるは大正七年以前に於ては不合格米の輸出を禁止せるに依る

六、至昭和四十六年度米券倉庫下農業倉庫入庫米検査

單位儀

四吉十象西同町上吉品田圭夫作
下善金丸字川飯坂坂川林松府瀧陶
多吉通藏

九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一

第二 考査の成績

一、麥收穗高對生產檢查言

年度別	種別		麥		小		裸		麥		大正十四年		昭和元年		同二年		同三年		同四年		
	作付反別	収穫高	段當收量	ル査高	生産検査高	段當收量	作付反別	収穫高	段當收量	ル査高	生産検査高	段當收量	作付反別	収穫高	段當收量	ル査高	生産検査高	段當收量	作付反別	収穫高	段當收量
年度別	作付反別	収穫高	段當收量	ル査高	生産検査高	段當收量	作付反別	収穫高	段當收量	ル査高	生産検査高	段當收量	作付反別	収穫高	段當收量	ル査高	生産検査高	段當收量	作付反別	収穫高	段當收量
大正十四年	三、九、四、反	一、七、三、石	一、九、勺	三、九、四、反	一、四、八、元	一、八、元	五、三、九、五	一、六、八、元	一、九、三	四、五、三	一、七、三、四、一	一、八、元	七、七八、七	一、六、九、五	一、四、一、九、元	四、六、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元
昭和元年	一、七、八、九、七	一、七、三、石	一、九、勺	三、九、四、反	一、四、一、九、六	一、八、元	五、三、九、五	一、六、八、元	一、九、三	四、五、三	一、七、三、四、一	一、八、元	七、七八、七	一、六、九、五	一、四、一、九、元	四、六、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元
同二年	一、七、八、九、七	一、七、三、石	一、九、勺	三、九、四、反	一、四、一、九、六	一、八、元	五、三、九、五	一、六、八、元	一、九、三	四、五、三	一、七、三、四、一	一、八、元	七、七八、七	一、六、九、五	一、四、一、九、元	四、六、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元
同三年	一、七、八、九、七	一、七、三、石	一、九、勺	三、九、四、反	一、四、一、九、六	一、八、元	五、三、九、五	一、六、八、元	一、九、三	四、五、三	一、七、三、四、一	一、八、元	七、七八、七	一、六、九、五	一、四、一、九、元	四、六、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元
同四年	一、七、八、九、七	一、七、三、石	一、九、勺	三、九、四、反	一、四、一、九、六	一、八、元	五、三、九、五	一、六、八、元	一、九、三	四、五、三	一、七、三、四、一	一、八、元	七、七八、七	一、六、九、五	一、四、一、九、元	四、六、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元	三、五、四、六	一、四、一、九、元

大正六年麥移出検査を開始し次て大正十四年生産検査を希望制度とし之れを行ひ越えて昭和四年生産検査制度を強制に改め現在に及へり。而して之れが經過に依る検査の成績を示せば以下各表の如し。

第二 麥 檢 查 の 成 績

大正六年麥移出検査を開始し次て大正十四年生産検査を希望制度としそれを行ひ越えて昭和四年生産検査制度を強制に改め現在に及へり。而して之れが経過に依る検査の成績を示せば以下各表の如し。

一、麥收穗高對生產檢查高

裸麥郡別生產檢查高

單位依

三 小夢君男生產檢查高

三

本年ヨリ制度ヲ強制ニ改ム

四、小麥收穫高對檢查高

四、小麥收穫高對檢查高										同 年 次	五 年 平均
大正六年										元、八五	元、九三
三三三、四九九										元、八六	元、九四
三一五、八〇八										四、八七	四、八八
二一三、七一〇										四、八八	四、八九
一八九、六三八										五、九〇	五、九一
一五七、四八八										五、九一	五、九二
一九一、七四三										五、九二	五、九三
二〇九、三三六										五、九三	五、九四
二〇四、七〇四										五、九四	五、九五
一四二、九八一										五、九五	五、九六
二三四、九三三										五、九六	五、九七
二八五、二六一										五、九七	五、九八
三三六、三六四										五、九八	五、九九
二八六、二五六										五、九九	五、一〇〇
六一、三五三										六、一〇一	六、一〇二
九五、一六九										六、一〇二	六、一〇三
八五、九五五										六、一〇三	六、一〇四
五〇、二〇五										六、一〇四	六、一〇五
五九、一八五										六、一〇五	六、一〇六
八六、七四〇										六、一〇六	六、一〇七
五六、六七〇										六、一〇七	六、一〇八
六七、四九七										六、一〇八	六、一〇九
六二、一五〇										六、一〇九	六、一〇一〇
四七、四五四										六、一〇一〇	六、一〇一
六二、一五〇										六、一〇一	六、一〇二
一九一、七四三										六、一〇二	六、一〇三
二〇九、三三六										六、一〇三	六、一〇四
二〇四、七〇四										六、一〇四	六、一〇五
一四二、九八一										六、一〇五	六、一〇六
二三四、九三三										六、一〇六	六、一〇七
二八五、二六一										六、一〇七	六、一〇八
三三六、三六四										六、一〇八	六、一〇九
二八六、二五六										六、一〇九	六、一〇一〇
六一、三五三										六、一〇一〇	六、一〇一
九五、一六九										六、一〇一	六、一〇二
八五、九五五										六、一〇二	六、一〇三
五〇、二〇五										六、一〇三	六、一〇四
五九、一八五										六、一〇四	六、一〇五
八六、七四〇										六、一〇五	六、一〇六
五六、六七〇										六、一〇六	六、一〇七
六七、四九七										六、一〇七	六、一〇八
六二、一五〇										六、一〇八	六、一〇九
四七、四五四										六、一〇九	六、一〇一〇
六二、一五〇										六、一〇一〇	六、一〇一
一九一、七四三										六、一〇一〇	六、一〇一
二〇九、三三六										六、一〇一	六、一〇二
二〇四、七〇四										六、一〇二	六、一〇三
一四二、九八一										六、一〇三	六、一〇四
二三四、九三三										六、一〇四	六、一〇五
二八五、二六一										六、一〇五	六、一〇六
三三六、三六四										六、一〇六	六、一〇七
二八六、二五六										六、一〇七	六、一〇八
六一、三五三										六、一〇八	六、一〇九
九五、一六九										六、一〇九	六、一〇一〇
八五、九五五										六、一〇一〇	六、一〇一
五〇、二〇五										六、一〇一	六、一〇二
五九、一八五										六、一〇二	六、一〇三
八六、七四〇										六、一〇三	六、一〇四
五六、六七〇										六、一〇四	六、一〇五
六七、四九七										六、一〇五	六、一〇六
六二、一五〇										六、一〇六	六、一〇七
四七、四五四											

五、小麥移出檢查成績

(单位表)

年 度	檢 查 總 數	五、小麥移出検査成績				受 檢 人 員
		一 等	二 等	三 等	四 等	
大正六年	四五八、四四二	七、七三五	一、五一、九一六	二、三三三、一五二	六四、六三九	一、七二四人
大正七年	一四八、二八五	一、二九〇	三八、五二七	三二、三九七	一、六四五	九三七
大正八年	二〇四、一九二	二、〇一、九一九	四一、六二三	四三、四〇七	一、二六一	
大正九年	一一八、六三四	一、七〇四	三四、九五二	一五、七七八	一、二三三	
大正十年	一五五、三七四	六六、二〇〇	二四、六六七	二九、六一八	一、二〇六	
大正十一年	一二八、六三四	八四、八八四	二二六、九八五	三五、一六八	一、一三三	
大正十二年	一五、九八五	二、八四七	一、四七七	二、九四六	一、一三〇	
大正十三年	二二六、八五三	二、四八七	五八、五三七	一、九一〇	一、一〇五	
大正十四年	一四一、六七三	七一、九八三	一、三八〇	一、九四一	一、一〇六	
昭和元年	二二六、八五〇	二、四八〇	二九、二八五	一、六〇四	一、一三六	
昭和二年	二二五、五二三	三、六三八	六一、九五一	七六、五七六	一、一〇五	
昭和三年	二二四、六三七	二、七四一	二九、二八五	三〇、五七六	一、一〇六	
昭和四年	一六〇、一四八	三、二四八	五四、五六七	六二、七四三	一、一〇四	
昭和五年	一〇〇、一九四	四、一六八	五三、二二七	八五、八八五	一、一〇三	
昭和六年	七五九、一九四	二、三五九二	五三、二二七	一〇、一〇八七	一、一〇二	
昭和七年	四九二	七五六九〇九	五三、二二七	一、一〇七三	一、一〇一	

裸麥移出檢查成績

單位依

自大正六年
至昭和六年度移出検査所別裸麥移出検査高

(單位：億)

六、 自大正二年 至昭和六年度輸出検査所別小麥移出検査高

單位儀

五ヶ年平均	二八〇、二七六	九、二五八	二一六、一三三	二三四、六六八	二二、五六〇	七、六五八	二二、二四五
昭和二年	二五一、〇〇二	一九、〇六五	一三九、〇七八	八七、八五〇	四、三三四	六八五	一、八四三
三年	二三三、〇〇四	三、九二七	五〇、六一三	一五一、二〇八	一五、二二七	二、〇三九	一、六一二
四年	一八一、七四三	一、六〇四	三四、一八五	一三三、七八三	一〇、五七一	一、六〇〇	一、六四九
五年	二八九、〇五五	七五四	三七、一六一	二二〇、八〇一	一三七、四四四	一、六六二	二、六〇七
六年	一七八、〇一九	一、八六四	三三、六五六	二二七、四四四	一三、三八三	一、五三三	一、四四三
七年	三四、五六五	五、四四三	五八、九三九	一五四、二二七	一四、四三四	一、五三三	一、八四七
最近五ヶ年平均	二八〇、二七六	九、二五八	二一六、一三三	二三四、六六八	二二、五六〇	七、六五八	二二、二四五

一三六

七、自大正六年度至昭和六年度仕向先別小麥移出數量

(單位俵)

自大正六年度仕向先別裸麥移出數量
至昭和六年

單位儀

林 氷 川 木 丹 多 四 松 財 財 河 大 紀 豊 觀 本 比 笠 上 下 大
度 田 野 普 地 高 高
田 上 島 太 生 津 筒 尾 田 西 內 原 伊 濱 寺 山 大 田 潤 潤 見

象琴吉吉四金造丸坂松坂千川佛上下由檀弦香高
藏生笠高

松西打佐岡居岡山疋出山本龜寺條野津平郷

備考 本調査は中米値段に依る平均したるものなり

神戸市場に於ける銘柄別三等玄米價格（年平均一石當）

本縣米ニ對スル差額	基準(→)	四五(→)	二四(→)	一四(→)	八五(→)	九二(→)	一、一八
一五〇							

備考 本調査は神戸米肥市場格付に依り平均したるものなり

二、乾燥調製改良の効果

検査実施前に於ては乾燥、調製、俵裝等不良なりしたため長期の貯藏に堪えず、價格の如何に拘はらず變質期迄には大半を賣却せざるへからざるの状態なりしを以て、一時的に出荷の旺盛なるは時價に影響し、一層價格を低落せしめて不利なる場合多かりしが、検査後は之れ等が完全に改良せられ脱粒、變質、虫害等に依る減耗少なく、且つ長期間の貯藏に堪ふるを以て適當の時期に賣却するの便利と價格より生ずる利益を得たるのみならず、其品位の向上は商品としての價格を昂め、取引の信用を得るに至れり。尙又検査実施前乾燥調製不良なりし當時は搗耗の量千分の五〇なりしも、改良後に於ては千分の七乃至四一に減し、實的上に及ぼしたる効果の大なりしものなり。若し夫れ搗耗より生ずる利益を消極的に米の增收と假定せば其利益莫大なるへし。(産米搗精調査成績参照)

三、包装改良の効果

検査実施以前の俵裝は其製作に一定の規準なきため何れも粗雑にして且つ緊括不充分なれば脱漏多く、運搬に堪えざるもの等ありて不利不便不妙、且又長期の貯藏米に在りては夏期必ず縮め直しの煩勞あり、隨て多額の経費を要せしも検査実施後は面目一新して運搬と貯藏に堪へ且つ脱漏米を減すると共に變質、虫害等に依る減耗を少なからしむるに至り、尙ほ需用家

に供給する白米の包装に於て二斗入り布袋を使用せしむるの制度を設けて利便を圖りたるに、需用地に於て一層歡迎せられ之れか需用は逐年増加の傾向を示し居れり。

四、容量一定の効果

検査前の容量は一定せず且受渡に際して拵減多かりしを以て兵庫市場に於ける受渡は一俵に付五合の拵引を以て取引せられ甚不利なる場合多かりしが、検査開始に當り區々なる容量を一定し、検査に於て之れか正確を期したる爲め賣買取引は勿論小作米の受授等に際して検量の手數を要せざる等受渡に就き多大の便益を得、而も容量の統一確保は商品價值を昂めたり。

五、取引上の便益

俵裝の改善、産米品位の區分、容量の正確は益々産米の實質的價值を昂めたる結果、検査前の如く取引に見本を要せず、検査の等級に依り敏活に取引せらるゝのみならず、生産者の販賣米に付きても亦從前の如く取引業者に廉賣せらるゝか如き弊を除くことを得たり。

第二 麦検査の効果

本縣の風土は麥作に適し品質良好にして搗耗少く、食味佳良殊に小麥は皮薄く粘氣に富み、製粉及醤油の原料に好適する等誇るべき特質を有するも、乾燥、調製粗雜なるがため其の真價を發揮する能はす、縣下經濟上の不利尠からざるを以て大正六年產麥より縣外に移出せらるゝものに付ては移出検査を開始するに至れり。爾來縣外取引に對しては容量、俵裝の改善統

年次	大正	十二年	十一	十九	八	七	六
價格	一五、〇六	一三、三三	一三、二九	二七、一〇	二七、二三	二一、〇五	二二、二六
價格	一五、〇八	一三、四一	一三、三九	二六、八九	二六、七〇	二〇、九〇	二一、九〇
(一)	(十)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
本縣二對	六九〇	一九〇	三三	五二	一五	三六	
價格	一四、九一	一三、四二	一三、四二	二六、九一	二六、六四	二〇、八六	二一、九七
(一)	(十)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
本縣二對	一五	一九	三三	二九	五八	一九	二九
價格	一三、七八	二二、一三	二二、〇五	二五、二七	二六、一〇	二〇、四五	二一、五六
(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
本縣二對	一、二八	一、〇九	一、二四	一、九三	一、三	六〇	七〇

兵庫市場に於ける本縣產裸麥價格と他縣產との比較對照

昭和	同	同	同	同	同	同	同	同
十四年	元	二年	三年	四年	五年	六年	七年	十三年
最近五ヶ年平均	年	年	年	年	年	年	年	年
六、四四	一、三八	三、五〇	一、八、三三	一九、五四	一九、四四	二二、六八	二五、三三	二〇、一四
一六、五三	一、四八	三、五三	一、八、三三	一九、六六	一九、六七	二二、九一	二五、五〇	二〇、二三
(十)	(十)	(十)	(十)	(十)	(十)	(十)	(十)	(一)
同								
九〇三格	二三三	二三三	二一八	二二、四七	二二、九一	二五、五〇	二〇、二三	二〇、一四
一六、四四	一、四五	三、五五	一、八、三三	一九、五〇	一九、三八	二二、四七	二五、二〇	一九、七七
(十)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
同								
格七五格	四	六	二	三	一			
一六、四四	一、四五	三、五五	一、八、三三	一九、五〇	一九、三八	二二、四七	二五、二〇	一九、七七
(十)	(十)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)
同								
格七五格	四	六	二	三	一			

一に努めたるため取引業者にありては幾分の便益を得たりしも、直接生産者たる農家には其の影響少く、隨て根本的の改善行はれさるを以て著しく聲價の向上を見さりしを以て更に之が生産改良を促進せしむるため生産検査實施の急務なるを認め、大正十四年產麥より希望検査の制度を布きたるに、幾分成績の向上を見たるも依然遲々として振はず、遂に昭和四年產麥より生産検査を強制施行するに至れり。爾來乾燥は順次良好になり、内容量の統一、包裝の改善等著しく進歩し隨て取引の圓滿を期し聲價亦漸次向上しつゝある現況にあり。今大正六年以來兵庫市場に於ける小麥裸麥の價格を他縣產のそれに比すれば左の如し。

一、價格上に及ぼしたる効果

兵庫市場に於ける本縣產小麥賈各と他縣產との比交對照

一、價格上に及ぼしたる効果

兵庫市場に於ける本縣產小麥價格と他縣產との比較對照

年次	大正						備考
	十二	十一	十九	八	七	六	
縣別	香川	四	一四、六八	一四、〇四	一四、〇三	一四、九一	一七、二〇
價格	圓	一四、六五	一四、〇五	一三、一五	一三、〇九	一七、六八	一七、一六
岡山	山	一四、六五	一四、〇五	一三、一五	一三、〇九	一七、三五	一七、四三
價格	圓	一四、六五	一四、〇五	一三、一五	一三、〇九	一七、三五	一七、四三
本縣 高低對	縣	一四、六五	一四、〇五	一三、一五	一三、〇九	一七、三五	一七、四三
兵庫	庫	一四、五四	一四、〇四	一三、九三	一三、八九	一六、九〇	一七、三七
價格	圓	一四、五四	一四、〇四	一三、九三	一三、八九	一六、九〇	一七、三七
本縣 高低對	縣	一四	一四	一〇	二二	三八	一七
備							
考							

一五二

	太正 十 年	昭和 十四 年
最近五ヶ年 平均	二二、五二 二一、七五 一五、五五 一四、六三 一八、〇七	二二、五二 二一、八五 一五、五三 一四、六九 一六、二八
同	二〇、六六 二一、八六 一五、二四 一四、四八 一四、四八	二〇、六六 二一、八五 一五、五三 一四、六九 一六、二八
同	(一)(一)(一)(一)(一)	(一)(一)(一)(一)(一)
同	四 三 三 六 五 六 二 〇	四 三 三 六 五 六 二 〇

二、容量統一の利便と其の効果

本縣産麥は由來品質良好にして食味佳良なるを以て各需用地に於て歓迎せらる。然れども乾燥不良にして貯藏中品傷み、酸酵するもの多く、調製に付ても一般土間にて取扱ひ砂石の混入甚しく、特に俵裝の如きも大部分古俵にして貯藏、運搬に際し脱粒甚しく、就中内容量一定せざりしため受渡毎に改貫の手數を要し取引上の敏速を缺く等其損失莫大なりしが、昭和四年產麥より生産検査の實施伴ひ、乾燥は勿論、調製、俵裝等大に改善せられ、加之内容量の統一を見たるを以て改貫の手數を省き商取引の圓滿を期する等其の効果大に見るべきものあるに至れり。

第三 米麥取引格差

米麥取引の格差は商品價値の基準となるべき最も重要なものにして、往年之れは穀價の變動により取引の圓滿を期するた

め屢々更改せられたる所にして之が格差に依り縣内は勿論、縣外市場に於ても圓滿に取引せられたり。而して現在に於ける取引格差は左の如し。

玄米取引格差表

(壹石當)

裸小麥	種別 等級	小粒	大粒	粉種別 等級	等級
裸小麦	一等	一 一、二〇〇上	一 一、二〇〇上	一等	一
三斤上	三斤上	二斤上	二斤上	二等	二
二斤上	二斤上	一斤上	一斤上	三等	三
基準	基準	基準	基準	等級	等級
三斤下	三斤半下	三斤下	六斤下	四等	四
六斤下	六斤下	六斤下	六斤下	等外	外

(正味百斤當)

第七編 試験及調査

第一 累年移入米數量調

(單位石)

地別移入高數量調

四
七

一五九

第二 累年產地別移入高數量調

(三)

佐山口	長崎縣	大坂府	千葉縣	和歌山縣	鳥根縣	長野縣
愛媛縣	福岡縣	佐賀縣	石川縣	長崎縣	廣島縣	熊本縣
兵庫縣	宮崎縣	大分縣	千葉縣	鹿兒島縣	德島縣	福岡縣
岡山縣	鹿兒島縣	鹿兒島縣	和歌山縣	鳥根縣	長野縣	佐山口
高知縣	高知縣	高知縣	高知縣	高知縣	高知縣	高知縣

第三 高產米生謂

第三米生產高調

年別	支種別	月次	明治四十年	同四年	同四十一年
			精米	精米	精米
四月	玄	四月	四、四毛	一、三毛	一、三毛
五月	米	五月	二、八毛	一、五毛	一、五毛
六月	米	六月	三、九毛	一、二毛	一、二毛
七月	米	七月	七、三毛	一、元三	一、元三
八月	米	八月	一、三毛	一、九毛	一、九毛
九月	米	九月	三、三毛	一、三毛	一、三毛
十月	米	十月	二、六毛	一、七毛	一、七毛
十一月	米	十一月	一、九毛	一、谷	一、谷
十二月	米	十二月	一、三毛	一、四毛	一、四毛
一月	米	一月	三、三毛	一、六毛	一、六毛
二月	米	二月	一、五毛	一、七毛	一、七毛
三月	米	三月	一、九毛	一、八毛	一、八毛
合計	米	合計	六、六毛	六、六毛	六、六毛

第四 累年月別海上運送米數量調

第六 古麥殘存高調查

一六七

第五 縣内に於ける在米高調査

在米高の多寡は需給關係と價格に至大の影響あるは言を俟たざる所にして、本縣に於ては大正二年以來主務省の通牒に基き毎年五月一日、七月一日、十一月一日の三期に於て之れか調査を行ひ、國家の米穀政策に資すると共に縣内に於ける需給に關する資料とせり。今過去二十ヶ年間の狀況を示せば左表の如し。

年次	種別		
	米	國外	朝鮮
大正二年	内地米	米	米
同三年	四〇、四〇三、〇〇四、四〇 四〇、九〇一、五〇、九〇 一	者生 持產 商人持 計	内 地 米
同四年	九〇四、五〇三、五〇六、九〇 三〇、四〇四、一〇三、八、三、七、六、三、〇、三 一	者生 持產 商人持 計	外 合計 米
同五年	一一、四〇三、八、三 一〇一、〇至三七、二三 一	者生 持產 商人持 計	朝 鮮 米
同六年	三、八 六、元七 三、〇八 一	者生 持產 商人持 計	國外 米
同七年	九、八八 全、〇五 一	者生 持產 商人持 計	臺灣 米
同八年	三、〇八 一	者生 持產 商人持 計	内 地 米
同九年	三、〇五 一	者生 持產 商人持 計	朝 鮮 米
同十年	一	者生 持產 商人持 計	國外 米
同十一年	一	者生 持產 商人持 計	合計 米

大正七年以後毎年七月一日現在に於ける古麥殘存高を調査を行ひ麥の需給關係の資料とせり。尤も此の調査は實地の調査にあらざるも倉庫營業者、農業倉庫、雜穀商又は消費者側の醸造家或は製粉工場等に就き大勢の動きに付其意見及所藏量を調査したものにして、麥の產地として誇れる本縣の如きは假令端境期と雖も例年相當の繰越しを存し、供給殊更圓滑なり殊に製粉工場及醸造業、製麵所等にして多量の小麥を消化するものあるを以て之れか原料とする小麥は勿論小麥粉をも多量存在せるを例とせり。其詳細を示せば左表の如し。

端境期に於ける古麥殘存高調

年次	種類	大麥 (石)			裸麥 (石)			小麥 (石)			小麥粉 (斤)		
		生産者持	商人持	計	生産者持	商人持	計	生産者持	商人持	計	生産者持	商人持	計
大正七年					一、〇〇			二、七〇			二七〇		
同八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
同九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
同十年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
同十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
同十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
同十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和元年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和二十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和三十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和四十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和五十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和六十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和七十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十一年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十二年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十三年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十四年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十五年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十六年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十七年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十八年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭和八十九年					一、〇〇			二、九〇			二九〇		
昭													

二、旭米容積重調查表

(印は木齒摺其他は謄謨齒摺)

郡市別	一等	二等	三等	四等	格外
調査點數	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量
四〇九一	四、一〇一	四、一〇一	四、一〇一	四、一〇一	四、一〇一
均 鮎 松 郡	平 丸 高 三 仲 多 豊 度 郡	大 川 小 木 香 綾 歌 川 豆 田 郡 郡 郡 郡	大 川 小 木 香 綾 歌 川 豆 田 郡 郡 郡 郡	大 川 小 木 香 綾 歌 川 豆 田 郡 郡 郡 郡	大 川 小 木 香 綾 歌 川 豆 田 郡 郡 郡 郡
四、二〇一	一六一	一六一	二六一	五〇八	四、二〇一
調査點數	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量
四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇
勿	勿	勿	勿	勿	勿
一五	一五	一五	一五	一五	一五
四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇	四、一五〇
調査點數	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
勿	勿	勿	勿	勿	勿
四、一八八	四、一三五	四、一三五	四、一三五	四、一三五	四、一三五
四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八
調査點數	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量
八	八	八	八	八	八
勿	勿	勿	勿	勿	勿
四、一〇七	四、一〇七	四、一〇七	四、一〇七	四、一〇七	四、一〇七
四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八
調査點數	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量	一斗平均重量
五	五	五	五	五	五
勿	勿	勿	勿	勿	勿
三	三	三	三	三	三
四、九一	四、九一	四、九一	四、九一	四、九一	四、九一
四、九五	四、九五	四、九五	四、九五	四、九五	四、九五
四、九八	四、九八	四、九八	四、九八	四、九八	四、九八
四、九八	四、九八	四、九八	四、九八	四、九八	四、九八
四、九八	四、九八	四、九八	四、九八	四、九八	四、九八

三、千石米容積重調查表

(譯讀齒摺)

郡	市	別
調査點數	一斗平均重量	等
一 九	四、二〇四匁	等
二 三〇	三 四	二
四、一三七	四、一六二匁	等
一 一	三 一	三
一 一	四、一一〇匁	等
一 一 一		四
一 一 一		等
一 一 一		格
一 一 一		外

	平	丸	高	三	仲	綾	香
				豐	多	歌	川
	均	龜	松	郡	郡	郡	郡
一四							一四
四、一七五							四、一六〇
八二	二	〇					二三
四、一四〇		四、〇八五		四、二三一			四、一四九
一三							一三
四、〇八〇							四、〇五〇
一							一
四、一〇八							四、一〇八
一							一

○印は木齒摺其他は讀誦摺

五、愛知中稻 米容積重調查表

(○印は木歯摺其他は護謨歯

一七四

六、三井選米容積重調査表

讀書指掌

	綾歌郡	仲多度郡	三豊郡	高龜郡	丸松郡	平均
六	一	一	一	一	一	一
四、一九一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	二	一	一
四、一七一	一	一	四、一三九	四、一四九	四、一〇〇	四、一〇九
二七	一	一	二	一	一	一
四、一〇七	一	一	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八	四、一〇八
一九	一	一	一	一	一	一
四、一〇四	一	一	一	一	一	一
二〇	一	一	一	一	一	一
四、〇七二	一	一	一	一	一	一

(○印は木齒摺其他は謹謹齒摺

七、大土、虎丸 米容積重調査表

郡市別	調査點數	一斗平均重量	等
大川郡	11111111111111	1匁	一等
木田郡	11111111111111	1匁	二等
小豆郡	11111111111111	1匁	三等
香川郡	11111111111111	1匁	四等
綾歌郡	11111111111111	1匁	五等
仲多度郡	11111111111111	1匁	六等
丸高郡	11111111111111	1匁	七等
平均	11111111111111	1匁	八等
松原郡	11111111111111	1匁	九等
三豊郡	11111111111111	1匁	外格

17

八、雜種米容積重調査表

(木蘭摺)

郡市別	一等			二等			三等			四等			格外
	調査點數	一斗平均重量											
木田郡	一	一	二	二	三	三	四	四	五	五	六	六	外
香川郡	一	一	二	二	三	三	四	四	四	四	四	四	外
平均	一	一	二	二	三	三	四	四	四	四	四	四	外

備考 雜種中には伊賀神力、雄町、奥吉、アラレ、中稻神力、出雲選を含む

昭和六年產米穀容積重調査計劃書

一、調査區域

1、輸出検査所 十個所

三本松 志度 高松 坂出 丸龜 金藏寺 琴平 上高瀬 觀音寺 豊濱

2、生産検査員 二十一人(二十一ヶ所)

大川郡志度町(溝淵岩太郎) 同郡富田村(片山爲太郎) 同郡小海村(工藤兵五郎)
 木田郡川島町(釜野 正一) 同郡前田村(植村 竹男) 同郡下高岡村(谷本徳次郎)
 小豆郡淵崎村(江岡 膳) 同郡大鐸村(佐伯善太郎) 同郡安田村(山本 實藏)
 香川郡鷺田村(田中 春吉) 同郡櫛紙村(井宮能太郎) 同郡由佐村(岡 一之丞)
 綾歌郡山内村(中西 七郎) 同郡瀧宮村(川田 傳) 同郡法勲寺村(河内三無郎)

仲多度郡高篠村(富田 圓藏)

同郡龍川村(次田 茂) 同郡吉原村(竹森 義之)

三豊郡比地二村(眞鍋藤太郎)

同郡桑山村(筒井喜代永) 同郡粟井村(安藤初治郎)

二、調査米の種數

水稻梗玄米とす

三、調査米の品種

其の町村内に於ける主要なる一品種につき各等級別に行ひ各等を得られざる場合には二品種に付調査するものとす但輸出検査所にありては左記代表的品種につき行ふ

香川神力 旭 三井選 千石 愛知中稻 大土(虎丸)

四、脱稃機の種類

護謨齒及木齒に區別すること

五、調査期間

自十二月一日至翌年一月三十一日間

六、調査點數

各等級(格外を含む)毎に十點

各等級下位のものに付き行ふ但し格外品に付ては乾燥不良のため格外となりたるもの五點品質不良のため格外となりたるもの五點計十點につき行ふ、輸出検査所にありては四等以上の各等級に付行ひ等外品は除く

七、計量方法

一斗桶を水平に置き計量の二割増の米を桶の口端八寸の高所より静に桶の中央に落し前方より手前に斗概を掛けたるもの

の重量を反覆二回検すること

一、香川縣產米等級別容積重調查表

日は不^可能^無指^其他^に語^言接^近

二旭米容積重調查表

四

三、香川神力 米容積重調査表

(印は木歎摺其他は護謨歎摺)

平	丸	高	三	仲	綾	香	小	木
		豐	多	度	歌	川	豆	田
均	龜	松	郡	郡	郡	郡	郡	郡
三	一	一	一	二	一	一	一	一
四、一四九				四、一九七	四、一〇八	四、一		
一〇二	四	一〇	三	一〇	二四	一五	一	三
四、二三二	四、一〇八	四、二二八	四、〇九四	四、一七〇	四、〇九八	四、〇八一	四、二三六	四、二三六
一五〇	一〇	一〇	三	一七	一九	三	一〇	三
四、〇七四	四、〇五九	四、〇六五	四、〇五〇	四、一二四	四、〇五四	四、〇六四	四、〇八〇	四、〇九〇
一〇二	一〇	一〇	一	一〇	一九	二	四	三
四、〇三二	四、〇四〇	三、九七四	四、〇〇〇	四、〇九三	四、〇三六	四、〇二二	四、〇四七	四、〇一七
五五	一	一	一	一	一九	二	一三七	
三、八九八〇三				三、九六〇	三、九八七	三、八九〇〇	四、〇〇八	

一七九

郡	市	別	一 等
大川郡	木田郡	小豆郡	一 等
一〇一	一一一	一一一	二 等
一〇一	一一一	一一一	三 等
四、二七一	四、二七一	四、二七一	四 等
四、〇四〇	四、〇四〇	四、〇四〇	四 等
一〇一	一一一	一一一	格 外
一〇一	一一一	一一一	外

六、愛知中稻米容積重調查表

(護謹齒摺)

五
不
大
參
和
重
讀
卷
三

卷之三

四、三井選米容積重調査表										(護謨齒摺)	
郡市別											
平	丸	高	三	仲	綾	香	小	木	大	一	等
均	龜	三	度	歌	川	豆	田	川		調査點數	
均	龜	三	度	郡	郡	郡	郡	郡		一斗平均重量	
五	一	二	一	一	一	一	一	一	一	五	一
四	三	三	九	四	四	一	一	七	〇	四	二
四	九	〇	一	一	七	四	〇	一	七	四	三
四	〇	九	六	〇	四	一	〇	七	三	〇	八
二	八	一	一	一	一	一	一	一	七	一	五
四	〇	六	九	一	四	〇	七	〇	七	〇	七
一	四	一	一	一	一	一	一	一	三	一	九
四	〇	〇	九	一	四	〇	〇	〇	七	一	三

四
三才選
米容和
重讀
卷之二

讀書

八、大土虎丸米容積重調查表

(護謄箇提)

郡市別										調査點數	一斗平均重量	等
丸高	三仲	綾歌	小豆	木川	大川	川	郡	郡	郡			
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
三	一	三	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇七四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一五六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外
四、一〇七七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	十一	一	外

七、名倉米容積重調査表

(讀書誤解指)

第八 高松市に於ける米麥價調

十、豐年米容積重調查表

十、豐年米容積重調查表

(謹謹的指)

郡 市 別	大川郡 田豆郡 香川郡 綾歌郡 木小郡 仲多郡 三豐郡
-------------	---

一等	調査點數 一斗平均重量
----	----------------

二等	調査點數 一斗平均重量
----	----------------

三等	調査點數 一斗平均重量
----	----------------

四等	調査點數 一斗平均重量
----	----------------

外格	調査點數 一斗平均重量
----	----------------

一八四

産米の搗耗りの多少は直に價格に影響を及ぼすは言を俟たず、茲を以て本縣に於ては明治四十年検査開始の當初より殆ど毎年一定の時期に於て産米の搗耗調査を行ひ其年の生産米の出來榮えと改良とに依る實價を知ると共に検査程度統一上の参考に資したり而して之れが成績は左表に示せるが如く供試原料米が同等なりと雖も年柄の關係にて多少の差異あり然しながら平均に於ては順次搗耗率を減じ搗精機械の改善は素より一面産米改良が向上したるを雄辯に物語れるなり。

産米摃精調査の成績

備考 表中●印は高相場 ▲印は安相場

一八八

麥貯藏試驗成績

のなり。而して之れが結果を見るに年に依り多少の差異あるも裸麥小麥とも其平均に於て容重量は總て増加し、裸麥は五月
が最も多く小麥は二月を最多とし次で十一月は各々多きを示せり。依裝の重量にありては各増減率極めて少なく概して減少
せる成績を示せるは屢々解いたる結果で依材の減損に依り重量を減したるものなり。尙貯藏中に於ける品位の變化虫害の
程度にありては毎年とも少數の穀象か發生し調査の期日に於て之れを發見したりと雖も蝕害の程度輕微なるがため容重量に
影響を及ぼす所なく、隨て品傷の被害をも認めず又乾燥に依る自然の變化もなく、終始原形を保持し良く貯藏に堪へ得たり
結論。試験の結果に徴すれば水分一三%乃至一三%五を含有せる乾度の三等品は小麥、裸麥共農家の土間に貯藏して九月以
後に至らば二百匁乃至三百匁程度の增量は確實にして若し乾度夫れ以上なるものは乾燥の程度に準じて增量するは疑ひを容
れさる所にして乾度低く水分含量多きものは季節的に增量は少なきものとす。

産麥の乾燥程度に依り貯藏中に於ける内容量の増減と品位の變化或は虫害等を的確ならしむるため昭和四年以來之れか調査を續行し其結果の大要を知るに至れり。本調査は勿論農家の實狀を建前とし各年とも農家の倉庫又は土間に於て貯藏せしめ生産當時より翌年の端境期に至る間毎月一定の期日に於て検量し、縣下數ヶ所に於て施行したるものと平均して表したるもの

第一〇 麥貯藏試驗成績の概要

第八編 穀物檢查所經費

經費

本縣穀物検査事業は總經費收入九千四百四拾圓、支出貳萬壹千六百八拾五圓にて事業を創始せしが、逐年事業の隆盛となるに伴ひ、經費も自然膨脹し、大正六年に至るや検査手數料増徵と麥輸出検査制度を實施せるに依り職員其の他検査關係諸費の増加せると諸物價騰貴に依る自然増額とに依り一躍收入に於て壹万四千六百圓、支出に於て參千八百九拾壹圓各増額となれるも、爾來毎年諸物價騰貴並に諸種事情の爲歳出のみ増加を來したるを以て收支の關係を考慮し、大正八年と同十年に再度手數料收納規程の改正を行ひ、手數料を増徵し以て之を補填せり。其後大正十四年麥生産希望検査を施行するに當り四圍の情勢に鑑み又も手數料増徵と徵收範圍擴張の止むなきに至り、之をが實施の結果前年に比し收入に於て四千七百四拾參圓增收せしも反面に於て職員費並に之に伴ふ諸支出に於て六千貳拾五圓の膨脹を見たり。更に翌拾五年手數料收納規程改正と

同時に米生産検査規則中部分改正に依り等級希望検査を實施するに當り諸経費共に増加を示し收入貳千貳百貳拾四圓、支出參千九百九拾四圓の増額を來せり。尙其後昭和四年に至り麥生産強制検査の制度を置きたるに依り之に伴ふ諸経費膨脹を補足せんが爲輸出検査手數料の改正を斷行し收入の財源を作りたる結果、前年より壹万壹千四拾四圓の增收と壹万四千八百八拾圓の支出増加となり、現今に及ぶも星霜を経るに伴ひ事業の充實すると共に之が経費逐年膨脹せんとする状況なり。今検査創始以來昭和六年度に至る廿五ヶ年間に於ける收支の大要を示せば次の如し。

穀物檢查所累年收支對照表

年次	明治四十年	支入	支出	年次	明治四十年	支入	支出	年次	明治四十年	支入	支出
同	同	同	同	大正	大正	同	同	同	同	同	同
六	五	四	三	二	元	四十	四	四十二	四十一	四十	四
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二二、八五一	七、二五一	七、一七七	六、九五四	九、〇七七	九、一四五	八、五三七	九、八三三	九、八三三	九、四四〇	九、四四〇	九、四四〇
三三、五九〇	二九、六六三	二九、六九九	二九、二四九	三〇、〇七四	二九、二三四	二九、〇〇五	二八、九三八	二七、九三八	二二、六八五	二二、六八五	二二、六八五
同	昭	昭	大	同	同	同	同	同	同	同	同
三	二	元	五	四	三	二	一	十	九	八	七
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
四一、八五二	四三、七三三	四四、四二九	四二、二〇五	三七、〇九三	三六、〇五八	三三、九三三	二八、九三四	二二、九二二	一九、五〇八	一九、五〇八	一九、五〇八
九〇、二三四	八九、一〇六	八四、八一八	八〇、八二四	七四、七九九	七四、一二四	七〇、七二〇	七一、〇二二	七一、〇二二	四一、九八六	四一、九八六	四一、九八六
九〇、二三四	八九、一〇六	八四、八一八	八〇、八二四	七四、七九九	七四、一二四	七〇、七二〇	七一、〇二二	七一、〇二二	一九、五〇八	一九、五〇八	一九、五〇八

同昭和四年	五三、八九六圓
昭和六年	二〇五、〇〇四圓
昭和六年	一〇一、四七〇圓
一九四	四六、五六三圓
一九四	九三、七八七圓

備考 支出に對し收入不足額は縣費にて支辨せり

昭和八年 月 日印刷

昭和八年

月

日發行

香川縣穀物検査所

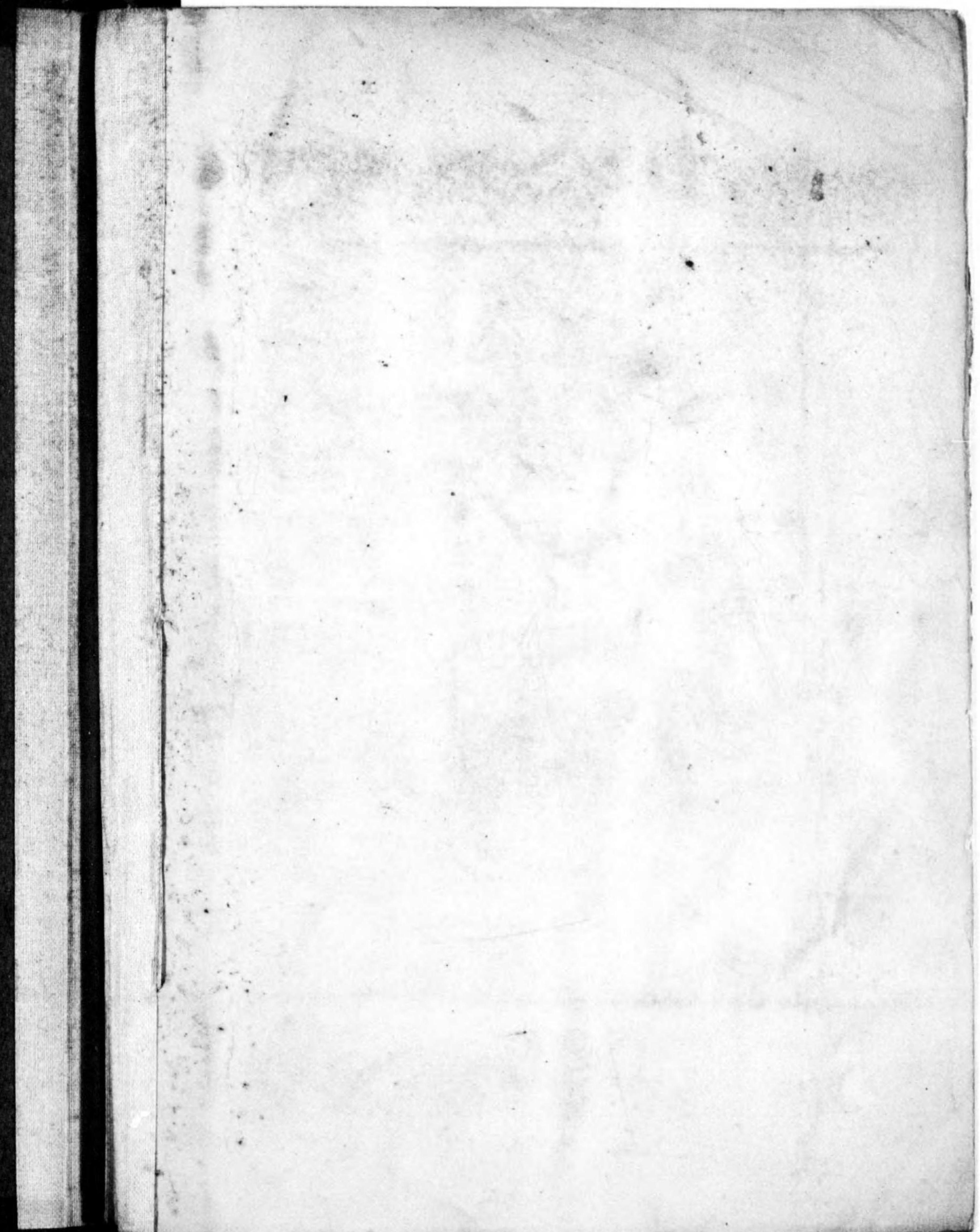
高松市幸町二九
印刷人 間島武男

高松市幸町二九

印刷所 間島印刷所

高松市幸町二九

頁數	行數	段數	誤	正
一五四	一四七	一五二	讃岐米との市場の 實施伴ひ	讃岐米と市價の 實施に伴ひ
一四五	一四六	一五二	茲に二十五年	今茲に二十五年
一四三	一四七	一五二	八、自大正十四年度 至昭和六年	八、昭和六年
一〇九	一〇九	一〇九	茲十五年	今茲十五年
一〇九	一〇九	一〇九	八、大正十四年度	八、昭和六年
一九六	一九九	一九九	因より	固より
一九九	一九九	一九九	注意し獎勵を	過きすと
一九九	一九九	一九九	產麥品評會の	產麥品評會の
一九九	一九九	一九九	獎勵品種は裸麥は	獎勵品種の裸麥は
一九九	一九九	一九九	極力施設を講し改善	極力改善
一九九	一九九	一九九	定壁	對壁
一九九	一九九	一九九	農事試験をして	農事試験場をして
一九九	一九九	一九九	任命又は退職年月日	同
一九九	一九九	一九九	第一區穀物輸出検査員	米麥鑑定
一九九	一九九	一九九	津田村	津田町ヲ
一九九	一九九	一九九	取締ノ道	輪廓ノ途
一九九	一九九	一九九	輸制	制定
一九九	一九九	一九九	而し合	而して合
一九九	一九九	一九九	部	都
一九九	一九九	一九九		



終

